

理学療法士・作業療法士養成校としての伝統を守り続ける

2008年(平成20年)4月に開学し、8期生369名の卒業生を送り出した学校法人佑愛学園・愛知医療学院短期大学。まだ歴史は浅いものの、実はその前身は1982年(昭和57年)の専門学校愛知医療学院開校までさかのぼることができる。2010年(平成22年)3月に閉校するまでの26年間、専門学校愛知医療学院は903名の理学療法士と418名の作業療法士を輩出し、卒業生たちは全国480カ所を超える病院や施設で活躍。短期大学として新たにスタートしてからも、それまでの伝統を受け継ぎながら、リハビリ医療に特化した分野を学べる教育機関として、今日まで歴史と実績を重ねてきた。

リハビリテーション学科のみの設置となる愛知医療学院短期大学に入学した学生たちは理学療法士専攻と作業療法士専攻に分かれ、それぞれ国家資格合格を目標に専門知識と技術の習得をしながら3年間のキャンパスライフを送ることとなる。

理学療法士・作業療法士 それぞれの役割

理学療法も作業療法も、病気やケガが原因で生じた心身の機能の低下を改善したり、回復させるための医療であるが、それぞれ目的とアプローチに異なりがある。

まず、理学療法は、身体機能の低下に対して直接的にアプローチをするものである。例えば、関節の動き

が悪い人に対して、関節が動きやすくなるストレッチングをするというように直接的な形である。理学療法の目的はその機能を改善することが目的で、元々が治療医学である物理医学の手段として発展してきた「治療法」と言える。

作業療法は、同じ身体機能の低下に対して間接的なアプローチをするものである。例えば、関節の動きが悪い人に対して、その関節を使うような作業活動を選び、作業をしているうちに関節が動かせるようになることを目指すのだ。また、理学療法と違うのは、必ずしもその関節が動くようになることが目標になるのではなく、その関節が動かさないことによる不便さを、別の道具などを使って代償するようなアプローチも作業療法となるのである。作業療法の特徴は、作業を用いて社会に適應する能力をつけることや、作業そのものを出来るようにすることが目標であり、直接的な身体機能を改善することだけが目標にならない。すなわち、作業療法は「治療医学」だけではなく、社会適應の為の側面も含まれているのである。

したがって理学療法を専攻した学生たちは、運動療法や物理療法を通して機能の回復・改善を図る理学療法を学んでいる。身体の状態に合わせた理学療法を実施できるよう、解剖学や臨床運動学などの基礎医学、整形外科学、精神医学などの臨床医学、理学療法における問題解決力を習得するのだ。

一方、作業療法専攻の学生たち

は、さまざまな作業活動を通して社会復帰を助ける作業療法を学ぶ。基礎医学や臨床医学のほか、哲学・理論・知識・技術・姿勢を習得。保健・医療・福祉とリハビリテーションの観点から、各障害への作業療法の適応も学習するのだ。

仲間と助け合いながら 国家試験合格をめざす!

現在、理学療法専攻141名、作業療法専攻109名が在籍している愛知医療学院短期大学。開学からの全卒業生の国家資格合格率は98.9%と、かなり高い合格率を誇るのだが、その強さはいったいどこにあるのだろうか?

「先生と友達、先輩、後輩といったタテとヨコのつながりがあり、一緒に勉強したり、わからないことは教えてあげたり、または先輩に教えてくれたのは作業療法専攻2年の近藤舞由子さん。この短大では「学習アドバイザー制度」という、少人数単位で担当の教員を付けてサポート

する制度を設けており、学習情報の指導や臨床実習に向けたアドバイス、学生生活の悩み、進路など、どんな相談にも親身になって応じているという。

「勉強のペースが早く大変と感じる反面、みんなで一致団結をして勉強を進めていくことがとても楽しいです」と答えてくれたのは理学療法専攻1年の渡邊瑠花さん。その言葉通り、学内にある学生プラザでは仲間とともにテキストを広げ自習をしている姿がちらちらで見られた。

また、学習を進める上で欠かすことができない臨床実習は、理学療法専攻では1年生の1月、3年生の4月、10月の期間に、作業療法専攻では1年生の1月、2年生の1月、3年生の10月の期間に行っている。実習先は学生の自宅から通える範囲で決めていくが、本学には2014年6月に開院した「ゆうあいリハビリクリニック・デイケアセンター」が併設しており、臨床実習の場としてはもちろんのこと、就職先のひとつにもなっているのも大きな特徴のひとつだ。

2020年4月にはさらに「愛知

[巻頭特集] 愛知県唯一のリハビリ医療専門短期大学

愛知医療学院短期大学

医療分野には医師をはじめと様々な国家資格を持つ人が活躍している。清須市にある愛知医療学院短期大学は、リハビリ医療に特化し、未来の理学療法士と作業療法士を育てている短大。毎年、高い合格率を誇るという本学のキャンパスライフをレポート!



専門学校時代校舎



2020年4月開園予定 愛知医療学院短期大学附属 ゆうあいこども園



臨床実習や就職先のひとつとなっているゆうあいリハビリクリニック

学生にインタビュー

作業療法専攻2年 近藤舞由子さん
介護の仕事をしてきた母の影響で、高齢者の方や患者さんに関わる仕事をしたと思っていました。色々調べていく中で、回復を見届けたり、患者さんに寄り添う作業療法士という仕事が素敵だなと思うようになりました。3年間で資格が取れること、オープンキャンパスでの明るい学生の姿に魅力を感じてこの短大を選びました。現在、バラスポーツサークルで活動しているので、将来はバラスポーツの楽しさを伝えたい、作業療法士の仕事に活かしていきたいと思っています。

理学療法専攻1年 渡邊瑠花さん
高校生の頃、部活中のケガの治療のために通っていたリハビリの先生が、患者さんと楽しそうに接している姿を見て、自分自身も同じように辛い思いをしている人を救いたいと思うようになりました。オープンキャンパスで見た先生と学生は、距離が近く信頼関係ができていて雰囲気を感じて、自分もここで頑張りたいと入学しました。思ったより勉強しなければいけないことが多く、ペースも早いので辛いと感じることもありますが、みんなで一致団結して勉強を進めているので、楽しい学生生活を送っています。



作業療法専攻実習風景 理学療法専攻実習風景

愛知医療学院 短期大学

所在地/清須市一場519
TEL/052-409-3311
<https://www.yuai.ac.jp/>



短期大学校舎外観

愛知医療学院短期大学 学長 石川清
本学はリハビリの短大、クリニック、こども園(2020年開園)の3つの組織が三位一体となり「地域のお年寄りを元気にする」というビジョンを掲げています。お年寄り、学生、こどもの3世代が、お互いを思いやり助け合いながら、日々「日常の生活の中で交流する世界を創り、地域に根差した学園を目指しています。」

楽しいキャンパスライフ♪



学生自治会で企画運営している学祭&体育祭 学生同士、力を合わせて開催している



女子野球部の皆さん。全日本大学女子野球選手権大会にも毎年出場している



「障がい者スポーツ」(通称:バラスポーツ)に関するイベントやチーム・選手の練習などのサポートを中心に活動している